

登録コード	E9120200	開講年度	2026	市民開放授業			
授業科目	神経・生理心理学					担当教員	高橋 知音
英文授業名	Neuropsychology					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生	
講義室	教育N 3 0 3 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	神経系における各器官のしくみと働きを理解し、人間の行動や認知機能を神経系の働きから説明できるようになる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	神経心理学の最新の知見をまとめて説明できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	受講生は教科書の指定範囲を読み、疑問点を事前にe-Alpsで提出する。 受講生の疑問に答えながら、教員が講義を行う。 授業の最初に前週の内容の確認小テストを行う。 神経心理学に関する最新の研究動向を知るために、自らテーマを設定し、データベースを用いて文献検索し、まとめた内容についてポスター発表を行う。						
(5)授業計画	第1週 ガイダンス 脳の全体像 第2週 脳を構成する細胞のしくみ 第3週 脳を構成する細胞のしくみ 第4週 大脳のしくみと働き（大脳皮質） 第5週 大脳のしくみと働き（大脳辺縁系） 第6週 間脳のしくみと働き、脳幹のしくみと働き 第7週 大脳基底核のしくみと働き、小脳のしくみと働き 第8週 特殊感覚を伝える神経の構造 第9週 <中間テスト>中間テスト45分、ポスター課題説明20分、講義：脳の研究法(1) 35分 第10週 講義：脳の研究法(2) 40分、文献データベースの使い方講習会60分（図書館2階） 第11週 感情・思考のしくみ、ストレス反応のしくみ 第12週 睡眠のしくみ 第13週 精神疾患・障害 第14週 ポスター発表 授業最終回到授業アンケートを実施します。						
(6)成績評価の方法	・神経系のしくみや働きの理解のために問題意識を持って予習をしたかどうかを確認するための疑問点の提出10% ・神経系のしくみや働きの理解促進のため毎回の授業内容の理解度を確認する小テスト40% ・神経系のしくみや働きの理解を深めるための中間試験 30% ・神経系のしくみや働きの理解を深めるためのポスター発表 20% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(7)成績評価の基準	神経系のしくみや働きの理解するために問題意識を持って教科書を読み疑問点を表明でき、修得した知識を試験で示すことができ、最新の研究成果について情報を自ら集め英語で抄録を読んで理解でき、それを他の受講生にわかりやすく説明できたら「卓越している」、一部に不十分な点があるだけなら「かなり上にある」、いくつかの部分に不十分な点があれば「やや上にある」、いずれも不十分な点を残しつつもすべての課題をこなしていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業で指定範囲となっている部分について問題意識を持って教科書を読み疑問点をe-Alpsに記入する。各回の授業で学んだ事項について翌週の授業で小テストを行うので、その準備を行う。第9週目に中間テストを行うので、神経系の仕組みや働きについて復習し理解を確認する。自分で設定したテーマについて学術データベースを用いて論文検索を行い、テーマに沿った論文の抄録を10件集める。内容を読んでより関連の深い5件に絞る。5件の抄録をポスターにまとめ、他の受講生にわかりやすく説明する。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	試験や課題が多いので、病気等による欠席の際はできるかぎり事前に連絡をすること。連絡があれば、成績評価の上で不利にならないよう、考慮する。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	tomonet@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	坂井健雄・久光正 「ぜんぶわかる脳の事典」 成美堂出版						
【参考文献】	特になし						